

第21回
これってワクチン後遺症？
ケアマネが気を付けるべきこと



秘
ここだけの話

在宅介護を 快適にする 極意

長尾和宏の

在宅医だから
伝えたい！



コロナワクチン接種後に 異変が起こる人たち

この原稿を書いているのは12月13日ですが、12月11日に、横浜で開かれたとあるシンポジウムで講演をしました。そのシンポジウムのタイトルは、<新型コロナワクチンを考える～ワクチン後遺症、ブレイクスルー感染、接種証明～>というものでした。主催は、私の本『ひとりも、死なせへん』に解説も書いていただいた医療ジャーナリストの鳥集徹氏^{とりだまり}、そして、僕のほかに京都大学ウイルス・再生医学研究所准教授の宮沢孝幸氏が基調講演をされました。

僕は、TwitterもFacebookもほとんど見ないのでよく知りませんが、コロナワクチンについて何か疑問を呈するだけで、ネットでは「反ワク」とか「陰謀論者」とか、「トンデモ医」などの批判を浴びるようです。このシンポジウムの開催にあたって、つべこべ言わずにワクチンを打て！ と何かなんでもワクチンを推奨する（しかもほとんどが匿名の）医師たちから、多くの言葉の矢が飛んできたという

執筆▶長尾和宏

医学博士。長尾クリニック院長。公益財団法人 日本尊厳死協会副理事長、関西国際大学客員教授。日本慢性期医療協会理事他。ベストセラー『痛くない死に方』『ひとりも、死なせへん』（共にブックマン社）など著書多数。

ます。まるで、国賊扱い。戦時中に戦争反対の集会をしているような空気の中、このシンポジウムは、蓋を開けてみれば、すぐに500名満席となりました。

そこで、12月25日には大阪でも同じ催しを急遽開催することにしたのですが、こちら、告知後すぐに満席となりました——ネットが支配する全体主義的な空気と、市民が受け止めている不安な現実には、大きな温度差があるのだと改めて肌で感じています。シンポジウムに出席された方の中には、ご家族や親戚、友人らがワクチンを打った後に急死したり、体調に異変が起きていることから、ワクチン接種に大きな疑問を抱き、この場所に来たという人が多くいました。だけ

ど、そのほぼ100パーセントの人が、「ワクチンとの因果関係は認められない」「気のせいだろう」という言葉を医療者から投げかけられ、どこに訴えてよいのか分からないまま行き場を失い途方に暮れているのです。病院をたらい回しにされている人もいます。そんな人の声に耳を傾け、おかしいものをおかしいと言うことが、どうして陰謀論者となるのでしょうか。目の前の患者の声を聞くこと。これは、医療者としての基本ではないでしょうか。

ケアマネも、まずは目の前の利用者の声を聞くことが鉄則なはず。匿名のネットの声を付度し、目の前で苦しんでいる人に「気のせいですよ」と平気で言える人は、ケアの仕事に

従事する資格はありません。これはワクチンに限ったことではなく、あらゆる薬の副作用にも言えることです。

ワクチン後遺症の現実

現在僕は、ワクチン接種後から体調を大幅に崩して学校や職場に1カ月以上行けなくなった患者さんを約40名ほど診ています。内、2人はまったく外出できないので在宅医療です。年代は小学生から80代まで広範囲にわたり、ほぼ寝たきりになった小学生や高齢者もいます。接種翌日から諸症状が出る人や、2週間後から症状が出る人もいます。2〜3カ月以上も社会生活から脱落する状態を筆者は「後遺症」と呼んでいます。

症状としては頭痛、めまい、胸痛、神経痛、食欲不振、全身倦怠感、脱力感、带状疱疹、生理不順、ふるえ、歩行障害など実に多彩で、いくつかの症状が重なる場合が多いです。その病態としてmRNAの接種により全身に配られたスパイク蛋白が各臓器で緩やかな慢性炎症を起こしているように感じます。種々の治療薬を組み合わせる治療しますが、単一の治療薬で劇的に改善するものではなく、まさに試行錯誤です。

コロナ後遺症を診る専門施設はありますが、ワクチン後遺症に対応する医療機関はほとんどありません。今後、ワクチン後遺症の実態解明、病態解明、治療法の確立、補償体制の設立など課題山積です。

3回目の追加接種は安全なのか

厚労省によれば、この年末までに日本国民の8割近くがmRNAタイプの新型コロナワクチン（以下、ワクチン）の2回接種を終了するといいま

す。また、3回目の追加接種も、12月12日の時点で、5万人に達しました。

あれだけ混乱を極めたコロナ第5波から、急速に感染が収束した理由は国民がワクチンを打ったからだ、と思っている人が多いですし、実際、ワイドショーでそのように言う専門家ばかりですが、本当の理由は未だ明らかにされていません。なぜなら、第4波のときに高齢者のほとんどはもう打っていたからです。僕自身、高齢者の感染予防にはワクチンは有効であったと考えていますが、「100パーセントワクチンのおかげである」という考え方には首を傾げています。先の宮沢先生も言っていますが、ウイルスとは感染が一定の規模で拡がれば、後は勝手に引くものだからです。

また、海外各国でも2回接種した人がコロナになる、ブレイクスルー感染が多発しています。ほとんどの国民がワクチンを3回打ったイスラエルでも、感染がまだ収束していない現実もあります。

しかし、日本においてもオミクロン株の広がりを受けて高齢者や医療・介護従事者に対して3回目の接種の準備が6カ月、前倒しされて着々と進められています。そしてその後は、介護施設を利用している高齢者の3回目接種が、ほぼ強制的に行われるはずで

す。3回目を打たなければ施設には入れないとなれば、ご家族も、不安ながらも同意せざるを得ないでしょう。

ワクチンの接種量は、欧米人の体格を基準に決められています。同じ量を、たとえば40キロ台しかない日本の高齢者が3本も打って、はたして持

ち堪えられるのだろうか……。抗認知症薬の増量規定における副作用が日本人に顕著だったように、3回目はキツすぎて、心肺機能が弱ってしまう高齢者が続出するのでは？ それでなくとも、冬場はヒートショックで心筋梗塞や心不全を起こす高齢者が増加するシーズン。入浴死で亡くなる人がいつもの年より増えるのでは……と不安でなりません。

ワクチン接種も意思決定支援

そもそもワクチンは、なんのために打つのでしょうか？ 感染しないため？ 確かに当初はそういう触れ込みでした。2回打てば感染しない、マスクも外せそうですと昨今の今頃はテレビで言っていました。しかし、いつしか専門家は「感染はします。しかし、重症化予防できます」と論旨を変えました。ただ、デルタ株から置き換わりつつあるオミクロン株は、そもそも重症化しにくいことが分かってきたので（弱毒化）、その理由ではもはや説得力がありません。「オミクロン株感染者全員がブレイクスルー感染」という海外からの報告も散見されます。ますます、なんのためのワクチンなのか、混沌としてきました。

一方、ワクチンには必ず有害事象があります。今こそ、日本人の高齢者へのワクチンのメリットとデメリットを天秤にかけて、本人の意思決定を尊重し、支援する態度がケアマネに求められると思います。胃ろうをするか、しないか／透析をするか、しないか／入院するか、しないか／と同じように「どちらの選択も尊重されるべき」という大原則を忘れてはなりません。1回目、2回目接種で体調が思わしく

ないという人は、3回目はなおのこと、慎重になるべき。本人の意思が不明瞭な場合は、ケア会議の議題に乗せてください。

「因果関係不明」で片づけていいのか？

ワクチンにはさまざまな副反応があります。接種直後のアナフィラキシーや当日の発熱やめまいを訴える人がたくさんいます。2〜3日経ってから食欲不振や全身の痛みを訴える人も多くいます。厚労省のホームページから、〈新型コロナワクチンの副反応疑い報告について〉という報告書を一度検索してみることもお勧めします。12月現在、ワクチン接種後に亡くなった人が約1,400人報告されていますが、十分な調査もされないまま、「因果関係不明」と表記されています。

僕のクリニックでは、約3,000人の高齢者に2回ワクチンを打ちました。直後のアナフィラキシー反応が1人いましたが、死亡者はいませんでした。しかし、お元気だったにもかかわらず、接種を境にして徐々に衰弱、1〜4カ月後に亡くなった超高齢者が3人いました。直接ではなくても、間接的にワクチンが、死を早めた可能性が高いことは、主治医として申し訳なく思いました。ADLが低下した寝たきりの超高齢者には、大きなリスクがあることを学びました。

こうした経験から、第5波が収束している現在、当院は高齢者への3回目の個別接種を行わないことに決めて一人一人に事情を説明しています。ワクチン接種は任意・自由意思が大原則であり、日本社会に広がる同調圧力は憲法違反（幸福追求権

の侵害）であることを多くのケアマネに知ってほしい。さらに本人意思が明確ではない認知症高齢者においても、医学的に慎重な検討をすべきです。「打っても打たなくても、どうせ死ぬ運命だった」と発言した介護施設の医師がいました。どうか、そういう医師に同調しないでほしいです。

自然免疫の重要性

そして人間には「自然免疫」という優れたシステムが備わっていることを忘れてはなりません。普通の風邪は、ライノウイルスや、従来型コロナウイルスが原因ですがわれわれは多くの自然免疫で撃退しています。僕たち人間は、ゲージで飼育されている実験用の無菌マウスとは違い、生まれたときからさまざまなウイルスを浴びて、自然免疫を獲得しているのです。一方、ワクチンで無理やり抗体を造り、減りかけたら追加接種をすることが絶対的善であるように現在は報道されています。そもそも2回打っても感染するのなら、そのワクチンは「効かない」ということです。僕は今回の新型コロナにおいても「自然免疫」のほうが重要だと考えます。

大好評 5刷出来

『ひとりも、死なせへん ~コロナ禍と闘う尼崎の町医者、551日の壮絶日記』

長尾和宏 著（ブックマン社） 1,650円（税込）



「人々の生活に密着した地域包括ケアの現実を、コロナ分科会の専門家たちは知らないし、為政者たちも町医者の意見に耳を傾けてこなかった。だから、市民生活が破壊されることなどお構いなしに、1年半以上にわたって自粛を要請し続けることが平気できるのだ。」

もし、長尾先生の提言が間違っているというのなら、より具体的で実現可能な対案を出すべきだ。」——鳥集徹（解説より）

変わりゆく時代のケアマネジャー応援誌

2021年12月30日発行(毎月30日発行) 第33巻第1号 通巻365号
1995年3月14日第三種郵便物認可

月刊 ケアマネジメント

1月号

特集

コロナ禍でも
営業を続けた現場に学べ



連載

長尾和宏の「在宅介護を快適にする極意」
これってワクチン後遺症?
ケアマネが気を付けるべきこと

特別企画

腰痛を防ぐリフトは水道に匹敵するインフラ